



ペンギンの衣替え

そろそろ秋物の洋服が恋しくなってきた今日この頃、みなさまいかがお過ごしでしょうか？

動物たちにも衣替えがあります。夏毛、冬毛、聞いたことがありますか？暑くなる前、寒くなる前、毛が生え変わる動物がいますね。中には全身の色がガラリと変わってしまったり、周りの環境に合わせて模様が変わったりする動物もいます。例えばニホンジカやオコジョがそうです。



《木漏れ日のような模様の夏毛》



《暗い茶色の冬毛》



《自然に溶け込む茶色》



《雪原に溶け込む白》

かみね動物園にいる鳥の仲間、フンボルトペンギンにも衣替えがあるんです。他の動物と違って、年に1回、暑くなる前の時期にそれは訪れます。

6月下旬頃から、ペンギンたちはたくさんの餌を食べ始めます。牛丼屋さんに例えるなら、普段は並盛、この時期はメガ盛です。

飼育員は驚くこともなく「お、いよいよ来たな」くらいな感じでたくさん食べてもらいます。

それと同時に、ペンギンの体に変化が現れてきます。体の表面が少しずつボロボロになってきます。



《少し背中が荒れてます》

一見、病気かなと思ってしまうような姿ですが、横を通る飼育員たちは何の心配もしていません。飼育員ひどいなと思わないでくださいね。

次第にボロボロ具合がひどくなってきたころ、ペンギンたちの腹囲はメタボ並みに広がります。そりゃたくさん食べれば、太るのは当たり前です。



《だいぶ背中が荒れて、ちょっと太った》

この「太る」というのは、言い方を換えれば「蓄える」ことになります。

ある程度「毛」が抜けて、といっても鳥ですから「羽毛」が抜けてしまうと、水に入らなくなります。



《地面に抜け落ちたペンギンの羽》

普段は生えそろった羽毛で皮膚まで水が入らないようになっていますが、この状態だと体が浸水してしまいます。また、つるんとした体でないと水の抵抗を受けて泳ぐのが大変です。



《ちょっとみずぼらしい姿に》

この水に入らない期間は、1週間から10日くらい続きます。水に入らない=食べ物の魚を取ることができない。しばらく食べなくても大丈夫のように、餌をたくさん食べて「蓄えて」いたのです。

お腹も引き締まり、そろそろ腹も減ったし、いよいよ入水です。



《腹減った》

生えたての羽毛は、それはそれはきれいなもので、撥水効果も抜群です。



《背中の撥水具合、わかりますか?》

そしていつもの生活に戻ります。



《左が換羽前、右が換羽後、白さを見比べてください》

換羽(羽が生え変わることをこう言います)の時期は、ペンギンの食欲がいつも以上に不安定になり、もぐもぐタイムが開催できなかつたりとみなさんをごっかりさせることもあります。こんなことが起きていたのです。

こんな様子を見られるのは、6月から7月の間です。いつもと違ったペンギンをまた見に来てください。

(白髪が増えたしいくいん たかはら)

2019年9月29日

身近な自然にダイブ！

今年の夏も暑かった！！そう！そんな暑い夏に熱い特別展を行いました！4回目となった「身近な生き物展」。身の回りにいる身近な生き物にスポットを当てた特別展示です。展示している動物は全て職員が市内で捕まえました。（一部ルール違反がありました。笑）



ラインナップはアマガエル、アリジゴク（ウスバカゲロウ）、ジョロウグモ、クロオオアリ、ハイロゲンゴロウ、アカハライモリ、オオカマキリの7種類。皆様にとってなじみ深い生き物でも意外と知らないことがあったり、実は身近にいるけどなかなかお目にかかれない生き物だったり様々な発見ができる展示です。



<アリジゴクのすり鉢状の罠が魅力的>



<見事な狩りを披露>



<お尻に気泡をつけるゲンゴロウ>



<ルール無視の常陸太田市で捕獲>

さらに、今回はいつもの身近な生き物の展示に加えて市内の山、川、海をテーマに生き物採集を行いました。その名も「生き物10種捕まえるまで帰れま10」！生き物の紹介だけでなく、採集方法や注意点なども併せて展示をしました。

<山編>

小木津山自然公園に出向いてライトトラップという方法で生き物を捕まえました！暗い山の中で大型の投光器を照らすとその光につられて虫たちが集まってきます。大量のカメムシと闘いながら、カブトムシやクワガタ、カミキリムシなどの甲虫類をたくさん見つけることができました。捕まえた虫たちはいくつか持ち帰り種類を調べて標本にして展示を行いました。皆さんが真似するにはちょっと大がかりな方法で難しいですが、これだけ多くの虫たちがいるのか知ってもらえればうれしいです。



<シートに虫が止まります>



<コガネムシ見つけた！>



<展示の様子>



<標本展示。種を同定するのが大変>

<川編>

海から山までの距離が近い日立市では、溪流から汽水域の河口まで多様な川が流れています。今回は東連津川や久慈川河口、秘密の川（秘密なのでどこかは教えてくれませんでした。）で生物採取を行いました。魚やエビなどから、カエルやサンショウウオなどの両生類までいろいろな発見がありました。採集の様子とともに、河口で捕まえたテナガエビを展示しました。



<大ベテランと若手職員>



<ナオ！そっちいったっぺよ！>



<アブラハヤとブラックバス>
オ>



<秘密の川で見つけたトウキョウサンショウウオ>



<展示の様子>



<テナガエビ！食べるとおいしいよ！>

<海編>

動物園から車で15分くらい行ったところにある会瀬海岸で採集を行いました。ここには漁港、砂浜、磯場といった様々な海がありますが、今回は磯一択でタイドプール（潮だまり）での遊び方をご紹介します。その名も「磯の水全部抜く！」。海の生き物は修敏なうえに隠れるのが上手で捕まえるのがとても難しいです。そこで干潮時にタイドプールの水を全部抜くことで中の生き物を簡単に捕まえることができます。パネルでの紹介と捕まえた生き物の展示、さらにはIT時代に合わせて動画を作成しタブレット端末を使って流しました。



<バケツで海水をかきだします！>



<水位が引いてアナハゼを発見！>



<ユビナガホンヤドカリ>



<カニ、エビ、サカナ、カイ・・・>



<展示の様子>



<水槽展示のアゴハゼ>

さらにさらに質問コーナーでは身近な生き物に関する疑問はもちろん、様々な動物の質問にも全部お答えしました！

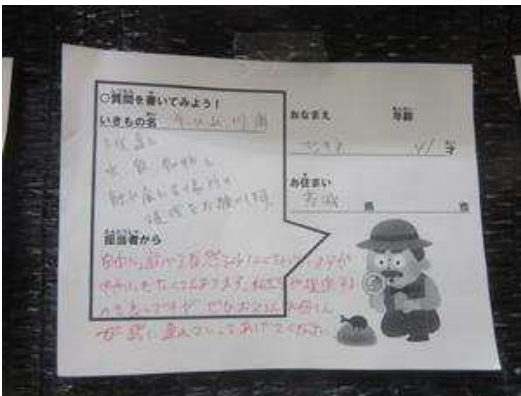


<その数は200枚以上。裏にもビッシリです>



<色々な質問がありました>

動物園ではゾウやキリン、ライオンといった人気動物に目が行きがちですが、私たちの身の回りにはたくさんさんの生物がいます！その一種一種にゾウやライオンにも負けない面白さがあり、見つけたり捕まえたりしたときの興奮は言葉では言い表せません。ところがそんな面白い自然での体験の機会というのは娯楽の多様化や開発で自然の減少、安全面の配慮から入る場所が少なくなったりと理由は様々ですが、私が子供のころ（20年位前）から比べても減ってきていると思います。質問の中に「こどもたちの自然体験の場を提供してほしい」とのご意見がありました。



少なくなっているとはいえ、自然体験の場は提供しなくてもいくらでもあります。ただ遊び方が分からなかったり、体験自体への興味がなかったりと、身近に自然があるのに自分たちの生活とリンクしないのが問題なのだと思います。この現状は飼育員としてもどかしいです。私の尊敬する動物園関係者の言葉に「動物園は自然への窓口ではなく、門口にならなければいけない。」というものがあります。窓は覗くだけですが、門口は出入りができます。自然を眺めるだけでなく、中に入るきっかけを作るのが動物園です。そんな思いを持ちなが

これからも身近な自然にスポットを当てた催しを行っていかれたらと思います。ぜひ皆様も自然の中に飛び込んでどっぷり遊んでみてください！



<地元の海を展示しています！>



<地元のバッタを展示しています！>

磯遊びの伝承者 なかもと

2019年9月18日

サルの楽園今日この頃 ～リスザル編～

サルの楽園今日この頃 ～リスザル編～

お知らせするのが遅れてしまいましたが、今年5月29日に誕生し、人工哺育をしていたリスザルの赤ちゃん（愛称：ゲンキ／性別：♂）が無事群れに合流しました！！（リスザル赤ちゃん誕生のお知らせ：<https://www.city.hitachi.lg.jp/zoo/003/p076958.html>）



（みなさんお待たせしました！）

母親であるサキは出産時の出血が多かったためその日に亡くなってしまい、ゲンキは人工哺育となりました。人工哺育とは、今回のように母親が亡くなったり、母親が子育てできないやむを得ない事情がある場合、人が代わりに子育てを行うことを言います。人工哺育を行うことは命を救うことができるという大きなメリットもありますが、一歩間違えば無事育っても群れに戻ることができない（自分を人だと思ってしまう、仲間から攻撃されるなど…）危険もあります。そのため、哺乳をしながらゲンキの成長具合を見つつ、群れに戻るための準備も進めていきました。

☆哺乳

人用のミルクをあげました。口が小さいので哺乳瓶ではなくシリンジ(注射器のようなもの)を使いました。飲む量や消化の具合を考慮し、濃度を調節しながら哺乳を行います。こちらの心配をよそに、何事もなく成長してくれました。



(哺乳の様子)

☆お見合い

自分はリスザルだ！ということを忘れないよう、群れの仲間と過ごす時間を積極的に作りました。はじめはケージ越しで姿を見られるように。視覚だけではなく、においや鳴き声もなど、五感で仲間たちの存在を感じてもらいました。また、将来過ごすことになる部屋にも慣れてもらうため、お見合いの時間を徐々に伸ばしていきました。



(群れの仲間は興味津々に様子を見に来ていましたが、時間がたつとそこまで気にすることはなくなりました…)

体がしっかりしてくると、いよいよ群れ入りに備えて動き始めます！

☆離乳に向けて

大人たちが普段食べている果物や野菜を食べる練習を始めます。まずは柔らかめのもの(かつ大人たちが好んで食べるもの…)から。はじめはガジガジかじるだけでしたが、徐々に飲み込むようになっていきました。すでに歯が生えているので、すりつぶしたりせず小さめに切って与えました。